



歌舞伎発祥の地は京都

出雲の阿国像

鴨川の四条河原は、1603年、出雲の巫女・阿国がかぶき踊りを披露したところで、これが歌舞伎の始まりとされている。阿国がまとった派手な衣装や舞いは異様な反面新鮮に映り、まだ戦乱の余燼が残っていた世の中で民衆の人気を博した。その後、風紀の乱れから女性の役者踊りが禁止されるなどの変遷を経て、次第に物語性をもった現在の歌舞伎につながっていった。



京都市ベンチャービジネスクラブ機関誌

SHAKE HANDS Letter

創造・交流・成長

<http://www.kvbc.jp>

発行人 京都市ベンチャービジネスクラブ
事務局 京都市中京区寺町通御池上る
京都市産業観光局商工部産業振興課内
TEL (075)222-3324

10・11

226

2007年11月10日発

有言無限

KVBC入会挨拶

（株）Hibana 代表取締役 松田 直子

KVBC会員の皆様はじめまして。株式会社 Hibanaと申します。9月よりジュニア会員として入会させていただきました。

弊社は、自然の素材であり、また自然のエネルギーでもある森林バイオマスの利用を広め、火のある暮らしを提案し、実現していくことを目指しています。地域の森林資源を地域で利用してエネルギーの「地産地消」をすすめ、循環型の社会をつくる一端を担えたら嬉しく思います。昨年の5月に設立したばかりですが、4年前より「薪く炭く KYOTO (しんくたんくきょうと)」というNPOで活動を行ってきた中で、より取り組みを広げていきたいと考え、起業しました。

具体的には、薪ストーブ、ペレットストーブ、木質ボイラー、囲炉裏、七輪等の森林バイオマス機器やバイオマスそのもの（薪・炭・ペレット）などの利用を、現代のライフスタイルに合

わせて提案。これらを暮らしや地域の中へ導入するためのお手伝いができればと考えています。

森林バイオマスの利用については、「古くて面倒」といった否定的なイメージがあったり、一部の薪ストーブに人気集中しているのが現状です。また、新しく開発された便利な機器にも、品質面においてばらつきがあります。そのため、まずはこうした機器に関する正確な情報やライフスタイルに合った使い方を提供し、選択肢を広げていきたいと思っています。家庭だけではなく、地域における森林バイオマスの活用を推進し、森林バイオマスとの暮らしを、社会の仕組みとして明確に描く仕事をしていきます。

私は町家暮らしで、火鉢やペレットストーブを楽しんでいます。ペレットストーブは木くずなどを高熱で圧縮した燃料（ペレット）を使うストーブで

す。火が点いてしばらくたつと、部屋は木の香りでいっぱいになり、火が見えると心がおだやかになります。

今後は機器の展示、モニターやリース、インテリアの総合コンサルティングも含めて、機器の設置支援を行いたいと考えています。Webの火出国（ヒイズルクニ）という場所で一般向けの情報発信、そして町家で森林バイオマス博物館などを開設する予定です。

京都という地でチャレンジするには理由があります。それは、地球温暖化防止の京都議定書が採択された地であり、また、伝統文化の根付く地であるからです。そんな京都から情報の発信源となれるよう尽力します。

KVBCの先輩の皆様からいろいろと勉強させていただき、新しいことに挑戦し続けていきたいと考えています。若輩者ですが、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

KVBC REPORT

9月例会

「ピンチ！」「失敗！」克服の秘訣とは？

～今だから語れるベンチャー経営者の体験談～

その3

ベンチャー企業の経営者がどのような気概やアイデア、創造と工夫で、ピンチを乗り越えチャンスをつかんできたのか…。去る9月26日（水）、KVBCの会員企業の皆さんの体験談に耳を傾け、議論を深める3回目の講演会が行われました。普段、なかなか聞くことのできない面白いエピソードなどが飛び出し、活発な質疑応答が交わされました。



斎藤三映子（(有)エスアールフードプロデュース 代表取締役）

魅力的で競争力のある惣菜を

私は農学部の食品栄養学科を卒業した後、製菓会社で研究開発を担当していました。そのとき、先輩から言われたのは、「本当に売れる商品を開発しなければならない」ということ。学生の実験のように、物事の“真偽”を徹底的に追究するのではなく、製造コストやユーザビリティを踏まえた競争力のある商品を、いかに素早く開発できるか…。大学を卒業したばかりの私の心に、その言葉はガツンと響きました。

その後、小さな食品開発メーカーに転職したのですが、その会社ではどんな食品がどれくらいの原料を使って、どのくらいの価格でつくられているか、データがまったく残されていなかったんです。早速、社長に直談判して

パソコンを導入してもらい、売価と原価を対比することで、何をどうすれば利益率が高まるのかわかるようなシステムをつくりました。例えば、「もう少し安い商品がほしい」という注文がお客様からあった場合、原価を見直すことで会社の売上げを減らさずに、新たな商品の開発が可能となるといったことです。

しばらくして、大手食品メーカーと共同で惣菜を開発することになったのですが、サンプル商品を見て、直感的に「これは売れない！」と思いました。惣菜というのは料理ではありません。見た目の派手さにこだわるのではなく、どこか懐かしい素朴な味わいが大切だと思ったんです。「ぜひ、開発

プロジェクトのリーダーになってほしい」と言われ、1アイテムで1億円のヒット商品を生み出しました。自分の会社を創業して10年余り。120アイテムにのぼる惣菜を開発。1,000セット売ればヒットといわれる業界で5,000セット以上を販売し、飲食店舗のプロデュース、地方の原材料を生かしたユニークな特産品開発プロデュースとともに、食と健康のテーマで各地講演活動をしています。今後は低農薬有機田畑の推進や食育の普及など、“食”に関する環境改善などにも力を注いでいきたいと考えています。



仲 良二（㈱ケルク電子システム 代表取締役）

ニッチな防犯市場に注目して社会貢献

私は学生時代、オムロンの草津製作所で券売機製造のアルバイトをしていました。その後、いわゆる学生ベンチャーという形で、阪急電鉄、京福電車等の券売機のメンテナンス会社を設立。私はラリーレースに出場するのが生きがいで、その趣味を楽しむためにベンチャーという道を選択したんです。しかし、このままではいけないと感じて1975年、たった一人で『ケルク』を創業しました。“防犯”という業界を選んだのは「人と違ったことをやりたい」と思ったから…。当時、セキュリティ市場というのは、一般的にほとんど認識されていませんでした。

映像捜査用機材を開発するにあたっ

て、現場に何度も足を運んでさまざまな体験をしました。例えば、侵入盗（空き巣）や連続事件といわれる事犯では、何人かの刑事が犯人の立ち寄りそうな場所に、夜を徹して張り込みます。そこで、「今まで人間がやっていたことを機械で代用できないか」と考えて開発したのが、センサーを使った侵入盗の異常通報機です。目的の場所に犯人が立ち寄ると自動的に知らせしてくれるというもので、恐らく国内第1号の開発商品だったろうと自負しています。映像を“撮る、見る”というのは、これからの犯罪抑制、検挙率向上のために、ますます重要なキーワードになってくるでしょう。

昨年6月、ケルクを若い後継者に任せて退任。新たに特殊映像システムや防犯カメラの製造・開発を行う、『ケルク電子システム』の代表取締役に就任しました。（従業員）60人分のリュックサックを肩から下ろし、気持ちも新たに再スタートを切りたいと思っています。これからも趣味のラリーを楽しみつつ、私がこれまで蓄積してきたノウハウ・知識を生かしながら、人とは違う商品・サービスを提供し社会貢献していくつもりです。



「名水・歴史・酒蔵のまち」伏見探訪 産業観光ツアー

去る10月26日（金）KVBC10月例会が開催されました。今回は、酒どころ 伏見の産業観光ツアーで、キンシ正宗株式会社と月桂冠大倉記念館、会員企業の株式会社和光舎を見学しました。見学会のほか、伏見の観光振興にご活躍の株式会社伏見夢工房 観光担当部長 永山恵一郎氏の講演、十石舟への乗船、懇親会など充実した内容で行われました。

最初は、キンシ正宗(株)で酒造りの行程を見学。同社取締役製造物流部長の田中明氏から、洗米、蒸し、発酵、絞り作業の概要について、現場を回りながら説明を受けました。発酵所は少しひんやりとしており、タンクの中で発酵しているもろみを見ながら、「このタンクで一升瓶何本くらいできるのか（答1,000本）」「この状態は何日目のものか（39日目）」などの質問が出ました。このもろみの試飲

では、純粋な酒になる前の味を伺い知ることができました。

説明される田中取締役部長



もろみの香りが漂います

以前は、おいしい日本酒順に「特級」「1級」など等級がありましたが、これが廃止されてからは、「本醸造」「吟醸」などの保証をつけたとのこと。しかし、それでもわかりにくいので、「香り」と「味わい」に区分。さらに「甘味」「酸味」のバランスを考えた4タイプに分類、表示していると伺いました。当日は、その4タイプを試飲させていただきました。そのほか、「日本酒を飲むのに適した器の形は」など初めて聞くことも多く、参加の皆さんも改めて日本酒について考えられたのではないのでしょうか。

次に見学したのは、(株)和光舎。ここでは、法衣・袈裟・打敷の仕上げと営業を行っています。代表取締役の西谷謙二氏は「この仕事を長くしていると、衣を見ただけで何宗で、どのような

の人がわかります」と言われ、皆さん感心されていました。

当日は袈裟や法衣などを集めて検品する保管所や事務所、刺繍

お話を伺った西谷代表取締役



約100年経た刺繍を写し取る手わざに感服する皆さん
修復専門工房も見学させていただきました。ミシンで刺繍の補修跡がわからないようにする技術や、刺繍を写し取る作業も手仕事で行われており、一針一針、丁寧に確実にしかも素早く行う手わざに、皆さんの目が釘づけになっていました。

その後、月桂冠大倉記念館を訪問。ここでは、酒造りの歴史を垣間見ることができました。酒蔵を改造した館内は、展示棟ごとに各工程で用いられる貴重な酒造道具が展示され、月桂冠(株)の変遷がわかるようになっています。

展示棟の入り口の前には、酒名「月桂冠」のもとにもなっている月桂樹（雄・雌）が植えられ

説明されるボランティアの大澤敏郎さん



展示棟で月桂冠の資料を見る皆さん

ています。棟内では、珍しい「甑こしき」（米を蒸すセイロ）や、大きなもろみ桶なども展示されているのが目を引きまします。そのほか、月桂冠のPR用品や資料などが時代を追って陳列されており、懐かしさとともに当時は惚けました。

帰りには、3種類の酒を味わわせていただきました。一つは昭和40年代に月桂冠が製造していた売れ筋の日本酒を再現したこくのあるお酒で、もう一つは現代風のやや辛口の大吟醸酒。そして、和歌山の南高梅を原料にしたワインでした。参加の皆さんは、特にこくのある昔の日本酒が口に合うようでした。

月桂冠大倉記念館を出た後、徒歩3分ほどで十石舟乗り場です。集合時来の雨も上がり、川面をゆったり進む十石舟にゆらけていると、ほんのりした酔いが心地よく感じられました。舟中からは琵琶湖疏水の起点や高瀬川を開削した角倉了以の碑、情報誌等でおなじみの酒蔵を眺めることができました。船着場の伏見みなと広場で一旦下船し、三栖閣門資料館を見学したり宇治川展望スポットから周辺を見下ろしたりもしました。その後、(株)伏見夢工房事務所で観光担当部長 永山恵一郎氏の講演（別掲載）を伺い、懇親会会場の「鳥せい本店」へ移動。懇親会では新入会員（3社）の紹介もされ、和やかな交流会となりました。



舟中での歓談風景

地域資産を活用したまちづくり・ひとづくり

永山恵一郎氏（㈱伏見夢工房 観光担当部長）

プロフィール

広島県出身。タウン誌『京都THE FUSHIMI』の刊行のほか、伏見港開港400年祭の企画事務局長などを務め、伏見の活性化に貢献。2002年、㈱伏見夢工房の観光担当部長に就任し現在に至る。商業活性化アドバイザーとしても精力的に活躍している。



手づくりの記念イベントで町の絆を深める

私が、伏見のタウン誌『京都THE FUSHIMI』を創刊したのは昭和54年のことです。広島市出身の私にとって、この地域にはたくさんの資産が眠っていると感じたのですが、残念なことにその魅力に地元の人たちが気づいていない。平成2、3年ごろまでは、宇治川派流は荒廃し、家庭ゴミや大型廃棄物が山のように捨てられ、ヘド口のおいまでしていました。「これでは伏見の魅力が台無しになる！」と、私はたった一人で河川に入り、捨てられたタンスを引き上げることから始めました。個人としても、タウン誌を発行する会社としても、“地域社会に貢献したい”という強い気持ちがあったのです。



タウン誌『京都 THE FUSHIMI』最新号

地元の人たちの心境に変化が現れたのは、平成6年の建都1200年祭の協賛イベントで開催された、「伏見港開港400年祭」の記念事業がきっかけでした。コンサートや世界酒サミット、酒蔵ライブ、十石舟の復元や三十石船の運航など約18の

イベントを開催。これらを大きな広告代理店に丸投げするのではなく、協賛金集めはもちろん、企画から運営、イベント後の報告書提出まで、すべて地元の人たちが中心となってアイデアを出し合い、協力しながら実施しました。自分たちの手でイベントを成功させることで自信が生まれ、町の歴史や文化の魅力を改めて認識できたのではないのでしょうか。

歴史文化資産を生かし地域ブランドを開発

また、国土交通省と協力し、地域の小学4年生を対象とした「ジュニア河川レンジャー」を育成しています。子どもたちを十石舟に無料で招待し、美しい町や川の風情を味わい、それを家庭で話し合ってもらおう。川沿いの生きものや草花を観察しながら、ゴミを拾う清掃活動に参加してもらおうなど、次代を担う子どもたちと一緒に地域活性化をめざしていきたいと考えています。カリキュラム修了者には、認定バッジと修了証を進呈。現在までに2,300名以上のレンジャーが誕生しました。彼らが大人な



ったとき、またその子どもたちへ...という長期的な展望をもつことで、この運動が一過性にとどまらないように願っているのです。

今後は、私たちの視点を“河川”から“陸(港)”へと移し、民間活力を生かしながら特色あるまちづくりを進めていきたいと思っています。昨年秋から、伏見と川でつながる守口市や枚方市、淀などと地域連携しながら、新しい地域ブランドづくりに着手。江戸時代の古い町家を借りて、“くらわんか”ブランドとした土産物の販売などが観光客から注目を集めています。

たとえ困難が大きくとも、「町を活性化していくんだ」という気概をもって行動すれば、いつかは変化が現れてくる...。これからも、私自身の足跡を伏見の町に残しながら、きらりと光る“プレーヤー”を育成していきたいと思います。

昔、宇治川を航行する客船に「お酒(うどんやそばなど)、くらわんか(どうですか)」と売りにきた故事にちなむ。

人材ネットワークプロジェクト

「サーティーズクラブ2007」第1回研修会開催される

人材ネットワークプロジェクトが、会員企業の若手幹部社員の研鑽の場、交流の場として企画した「サーティーズクラブ2007」の第1回研修会が、去る9月5日(水)に開催されました。

14名の会員企業社員の参加のもと、講師を招いての研修会および会員相互の交流会・懇親会などが行われ、盛況の内に終了いたし

ました。また、参加されなかった会員企業からの要望も挙がり、参加者の追加募集もされました。

今後の開催日は、11月12日(月)、1月22日(火)、3月18日(火)となっておりますので、ぜひ若手幹部社員の皆さまにご参加いただきますようお願いいたします。

就職活動と企業採用

Part

（株）学情 京都支社 支社長 中村秀和

新卒者に比べ、数年前まで第2新卒者（若手社会人・フリーター）は、否定的なイメージで捉えられていた。しかし、団塊世代の一斉退職をはじめとした就労環境の変化などにより、「第2新卒者は企業の戦力として必要」と考える企業が多くなってきた。そこで、最終回は初回でも少し触れた第2新卒者の採用を取り上げ、彼らの意識や動きそして企業側の評価等をみてみる。

第2新卒者の意識と就職活動

第2新卒者を含む25歳までの人は、転職に対する抵抗が少ない。むしろ転職をステップアップ、キャリアアップの機会と捉える人が多い。就職氷河期を乗り越えてきた世代 - 現在30歳代 - がもつ、「一度就職したからには長く勤めたい」という意識に比べると違いがはっきりしている。また、第2新卒者は企業を選ぶにも安定志向が伺える。以前は、独立志向で一攫千金を狙った野心家が多く見られたが、一部のIT起業家による事件も一因となったか、今はそのような動きも少なくなっている。さらに、売り手市場なので大手企業にも就職の可能性が出てきたことや、今まで採用していなかった企業もそれに向けて動きを示してきたことなど、間口が広がったことも考えられる。[参考資料]

第2新卒者は、現在就業中の人（若手社会人）と就業していない人（フリーター）に分けて考えられ、その就職活動にも自ずと違いが見られる。若手社会人が動きやすい時期は、通常年2回のボーナス時期前後および企業の人事異動が起りやすい決算時期（9月・3月）。それに対し、フリーターは、年中就職活動を行っているが、卒業して1年目くらいの人は学生時に行っていた就職活動に近い動きをする傾向にある。また、同時に「就職できていない」というあせりや危機感をもっているため、「4月から動き、できれば夏までに結果を出したい」と考えている人が多く見られる。しかし、卒業後2年以上の人になると、就職に対してのあきらめや本人の割りきりが出てくるので、時期を選ばずに自分の気持ちで動いたときに活動し、比較的時間をかけて仕事を選ぶ人が多い。

現在第2新卒者の市場は420万人、新卒者の市場は45万人という統計が出ているなか、こだわりをもつ第2新卒者の採用状況はかなり厳しいと考えられる。

企業からみた第2新卒者とは

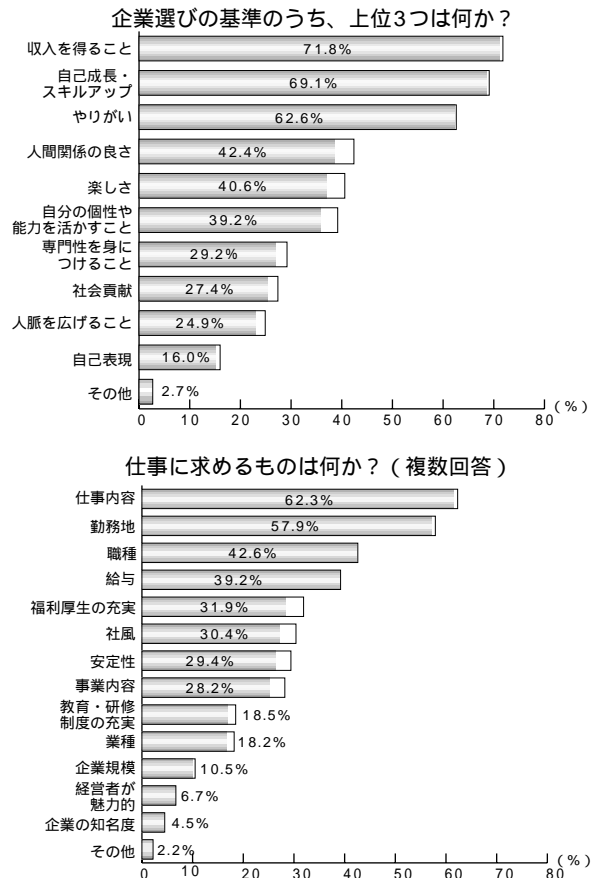
企業が求めるのは、やはり新卒者である。理由は、「クセがなく、会社の望むように育てる

ことができる”からである。しかしながら、「新卒者を採用しない、できない企業」が人材を確保しようとすると、やはり第2新卒者世代を対象にせざるを得ないということになる。

この世代は、就職後は「歯車志向」が強いといわれる。前項に述べた野心家よりも、自分のフィールド内で与えられた仕事をこなしていく歯車（安定）型になることが多いそうだ。それが10年後、20年後に見たときに、果たして彼らが会社を支えていくことができるのか懸念される。したがって、経営者も、彼らを「受け入れる準備や教育を組み立てること」「使う能力を高めること」、および彼らに対する「評価制度の検討」などをしっかり考え、対策を練ることが必要になろう。

参考資料 第2新卒者の意識調査

Webアンケートにより605名から回答を得た



【資料出典：『学情レポートCOMPASS』10/10号から】

美山町の見学と今後のテーマを議論

去る8月29日(水)、ものづくり研究会8月例会(第146回研究例会)が開催されました。

今回は、美山町の「かやぶきの里&美山町自然文化村」の見学および今後のものづくりのテーマを議論しました。「エコバッグなどの簡易なバッグを考えよう」というテーマでは、研究会ならではのさまざまなアイデアが出ました。皆さんのアイデアで、夢のある商品づくりを進めてゆきたいと思っています。また、通常例会とは別に、さらに会員相互の交流を深めるために「ゴルフ例会」の開催も検討することになりました。

議論終了後は河鹿荘で入浴し、心身ともにリラックスしたのち夕食をいただきました。鮎をふんだんに使った鮎会席を堪能し、皆さんの会話ははずみ、和やかな時間を過ごしました。



かやぶきの里を背景にして



議論をする参加者

新入会員情報

KVBCジュニア会員

あすなる社会保険労務士事務所

代表：堀内創司

事業内容：社会保険・労働保険など労働問題

所在地：京都市右京区太秦乾町33-13

TEL.075-881-6221 FAX.075-881-6221

URL http://sr_asunaro.izn.jp/

株式会社Hibana

代表取締役：松田直子

事業内容：森林バイオマスの利用促進および普及啓発

所在地：京都市東山区本町17-354

TEL.075-532-2109 FAX.075-532-2110

URL <http://www.hibana.co.jp/hibana/>

KVBC会員企業からのお知らせ

株式会社キャリアネットワーク京都(代表取締役社長 元田武彦)は、平成19年10月より、下記の住所に移転いたしました。

〒607-8035 京都市山科区四ノ宮神田町19番地201
TEL & FAX 075-634-6805

KVBC忘年会開催のお知らせ



期日 12月14日(金)

詳細については、決定次第

ホームページ等でご連絡いたします。

Information

活動報告&予定

- | | |
|--|--|
| 8月24日(金) 14:00~19:30 (同志社大学他) | 10月26日(金) 13:30~20:30 (キンシ正宗、和光舎など) |
| 8月例会 冷泉家講演会、
金剛能楽堂見学会、納涼会 | 10月例会 伏見探訪 産業観光ツアー |
| 8月29日(水) 13:45~21:00
(「かやぶきの里」「美山町自然文化村」) | 11月 8日(木)、9日(金) 10:00~17:30
(みやこめっせ 第2展示場)
「テクノ新選組!! 京都中小企業展」への参加 |
| ものづくり研究会
かやぶきの里見学会、納涼会 | 11月12日(月) 18:30~ (三井ガーデンホテル京都三条)
人材ネットワークプロジェクト
サーティーズクラブ2007 第2回研修会 |
| 9月 5日(水) 18:30~ (京都産業会館) | 12月 1日(土)~3日(月)
KVBC海外研修 (中国・大連市) |
| 人材ネットワークプロジェクト
サーティーズクラブ2007 第1回研修会 | |
| 9月26日(水) 18:30~20:30 (ば・る・るプラザ京都) | |
| 9月例会 ベンチャー経営者の体験談 | |